

3月10日(水曜日)
ドル/円

クロス円主導の展開続く

9日(火)の主な推移

ダウ平均株価

10564.38ドル
(+11.86ドル)

米長期金利 (10年債利回り)

3.6986%
(-0.0190%)

NY原油先物

81.49ドル
(-0.38ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

①

英2月RICS住宅指数が大幅に悪化したことをなどをきっかけにポンド/円でポンド安・円高が進んだ上、日経平均が安寄りしたことでクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)が下落。これに連れてドル/円も円買い優勢の展開となった。

②

格付け会社フィッチが「ポルトガルの財政再建が不十分なら格下げの可能性」を示唆したことからユーロ/円が下落。さらにフィッチが「英国のソブリン信用状況が悪化した」「AAA格の中で、英・仏・スペインの緊急性が高い」「英国は財政の一段の調整が必要」などと発表すると、ポンド/円も大幅に下落した。この流れの中でドル/円も円買い優勢となり、19時前に89.61円の安値をつけた。

③

ダウ平均株価が小安く寄りついたもののすぐに前日比でプラスサイドに盛り返し、上値を拡大。これを受けて徐々にリスクに対する警戒感が薄れ、円は全面的に売られる展開となった。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 89.50-90.70円

今週前半は米国の経済指標や要人発言など手掛かり材料が乏しことから、クロス円主導でドル/円が動く展開が続いている。本日も同様に米国関連の材料難から、引き続きクロス円中心の展開が続くものと考えられる。クロス円については、欧州各国のソブリン・リスクが強烈に意識されており、比較的风险に対する警戒感が強く、クロス円での円安は進んだとしてもかなり上値が重い状態が予想される。つまり、ドル/円でドル高・円安が進行しても、ドルは上伸力に欠ける展開になるとみる。

ドル/円の日足チャートを見ると、2月19日の高値92.14円から3月4日に88.12円の安値をつけるまでの下落に対し、ドル/円は先週末から今週月曜に掛けて反発したが、61.8%戻しとなる90.60円付近で反落した。しかし、38.2%戻しの水準である89.66円辺りでは底堅い様子も見られている。従って、米国関連の明確な材料が出てくるまでは、この89.66~90.60円のレンジ内で概ね推移すると考えられる。

本日及び翌朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
3/10(水)	27:00	○	(米) 財務省10年債リオープン入札 (210億ドル)	—	—
3/11(木)	08:50		(日) 第4四半期GDP・二次速報[前期比]	+1.1%	+1.0%
	08:50		(日) 第4四半期GDP・二次速報[前期比年率]	+4.6%	+4.0%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com